

2018年5月9日 ドイツ・ミュンヘン

2018年度 第2四半期決算

期間:2018年1月1日~3月31日

デジタル業界への投資が奏効

「当社のビジネスはデジタル事業を中心に素晴らしい業績を上げ、化石燃料発電の構造的課題を相殺して余りあるものとなりました。当社は業界の旗振り役を務めることで、産業構造の変化の把握とデジタル業界の発展にコミットしていることを発信しています」— ジョー・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

- 売上は前年同期とほぼ横ばいの201億ユーロ、受注も223億ユーロと堅調でしたが、大型受注があつて好調であった前年同期と比べると2%減。出荷受注比率は1.11。
- 為替の影響およびポートフォリオの効果を除く比較可能ベースで、売上は横ばい、受注は1%減。
- インダストリービジネスの利益は23億ユーロ、利益率は11.0%。デジタルファクトリー事業が牽引して好業績であったものの、パワー&ガス事業の急激な収益減および採算の悪化が足かせとなる。
- 純利益は20億ユーロで、ポートフォリオ中央管理活動(CMPA)による7億ユーロを含む。基本1株当たり利益(Basic EPS)は前年同期の1.75ユーロから2.39ユーロに増加。
- Siemens Healthineers AGの新規株式公開(IPO)が順調に進み、15%の株式を公開発行。

Siemens

(単位：100万ユーロ)	第2四半期		増減 (%)	
	2018年度	2017年度	実質	比較
受注	22,318	22,746	(2)%	(1)%
売上	20,14	20,135	0%	0%
利益				
インダストリービジネス	2,254	2,458	(8)%	
内、退職手当	(130)	(55)		
利益率				
インダストリービジネス	11.0%	12.0%		
退職手当を除く	11.7%	12.3%		
継続事業からの利益	1,974	1,429	38%	
内、退職手当	(161)	(72)		
純利益	2,018	1,454	39%	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	2.39	1.75	36%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	791	738	7%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	16.6%	13.0%		

- 受注額は好調であった前年同期に比べて微減ながらも堅調。受注減の要因は、主に当該期間中に統合して設立されたシーメンス・ガメサ・リニューワブルエナジー (SGRE)、エナジーマネジメント事業およびパワー&ガス事業における大型受注の減少による。大型受注の減少を除けば、受注件数は明らかに増加。
- 受注残は 1,290 億ユーロに増加。
- 売上は統合による SGRE の急激な売上増とデジタルファクトリー事業の 2 桁成長を含む。予想通り、パワー&ガス事業は縮小する市場を反映して大幅な売上減を続ける。
- 為替のマイナス影響は受注を 7 ポイント、売上を 6 ポイント押し下げる。ポートフォリオ取引は受注および売上をそれぞれ 6 ポイント押し上げる。
- インダストリービジネスの主な減益要因は、市場状況により前年比 3 億 2,500 万ユーロの減益となったパワー&ガス事業による。他のインダストリービジネスの大半は堅調な業績を継続。特にデジタルファクトリー事業は、短期サイクル事業と製品ライフサイクル管理ソフトウェア事業で力強く、利益を急激に伸ばす。モビリティ事業は前年同期の高い利益率を上回る。ビルテクノロジー事業と Siemens Healthineers は利益に大きく貢献したものの、前年同期におけるビルテクノロジー事業の年金制度改定による 9,400 万ユーロの増益 (インダストリービジネスへの全体的な影響：1 億 3,800 万ユーロ) および Siemens Healthineers における為替のマイナス影響により減少。
- インダストリービジネス以外では、ポートフォリオ中央管理活動 (CMPA) を通じて、Atos SE への投資に関連して会社保有の Atos SE 株式を Siemens Pension-Trust e.V に譲渡したことによる 9 億ユーロの利益を計上したものの、CMPA での株式投資に関連する 1 億 5,400 万ユーロの減損損失を一部相殺。全社費用は削減されたものの、主に SGRE の合併とメンターグラフィックスの買収による企業統合で獲得した無形固定資産の減価償却の増加でその多くが相殺される。
- 継続事業の利益と純利益は、税引当金の取り崩しによる所得税率の前年比低下および前述の Atos SE 株式譲渡における大幅な非課税利益により増加。この増益要因は、Siemens Healthineers グループ設立に関連した所得税のマイナス影響を十分に相殺。
- 2018 年 3 月の Siemens Healthineers の新規株式公開により、総額 42 億ユーロを調達したことにより、今四半期のキャッシュフロー (取引費用控除後の正味手取金額) は 36 億ユーロ、2018 年第 3 四半期期首で 5 億ユーロ。これらのキャッシュフローはフリーキャッシュフローの一部に充当せず。
- 今四半期の ROCE (使用資本利益率) は純利益の増加により上昇。主にメンターグラフィックスの買収と SGRE の合併による平均投下資本の増加分を十分に相殺。
- 総額 18 億ユーロの拠出金により、シーメンスの年金資産が強化され、ドイツの従業員の退職後給付を確保。これにより、2018 年 3 月 31 日現在、退職年金引当金と類似債務が 81 億ユーロに大幅に減少 (2017 年 12 月 31 日現在は 97 億ユーロ)。

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG(ドイツ・ミュンヘン)が 2018 年 5 月 9 日(現地時間)に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます(英文)。

[https://www.siemens.com/press/en/pressrelease/?press=en/pressrelease/2018/corporate/2018-q2/pr2018050182coen.htm&content\[\]=Corp](https://www.siemens.com/press/en/pressrelease/?press=en/pressrelease/2018/corporate/2018-q2/pr2018050182coen.htm&content[]=Corp)

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com